

Middle Tennessee State University

ミドル・テネシー州立大学

所在地

1301 East Main Street, Murfreesboro, TN 37132-0001, U.S.A.
ホームページ: <http://www.mtsu.edu/index.php>

経済学部: 専門留学
外国語学部: 学部留学

沿革

1911年に創立されたミドルテネシー州立大学は、教師養成のために設置された大学である。創立以来、卒業生は9万人にのぼり、「航空学」「ビジネス」「ジャーナリズム」「音楽産業」が有名である。教授陣は900名以上で、質の高い学士・修士・博士課程を提供している。学生数は約22,000名で、国際色豊かなキャンパスでは1年を通じて様々なイベントやクラブ活動が盛んに行われており、学生同士の交流の場となっている。

特色

○経済学部/外国語学部相互乗り入れの提携校。
○授業料免除の交換留学(学部/専門留学のみ): 経済学部、外国語学部合わせて若干名。
本学学生はこれまで、企業倫理、マネジメント、マーケティング、Business Finance、Supply Chain Operation、マイクロ経済、ビジネスコミュニケーションの他、地理、異文化理解、スポーツ、スペイン語などを履修している。毎週金曜にはLanguage Tableという集まりがあり、日本語学部のアメリカ人学生に日本文化を教え、一緒に勉強する機会がある。

宿泊

本学の留学生は、原則としてキャンパス内にある寮(Deere Hall)に入寮する。

生活

テネシー州の州都であるナッシュビルは、カントリーミュージックなど全米の音楽発信地としても有名で、音楽産業が盛んなことから「ミュージックシティ」の愛称で親しまれている。ミドルテネシー州立大学は、ナッシュビルから車で50分程度のマーフリーズボロ(Murfreesboro)という町にあり、広大な敷地の中に新築もしくは建設中の校舎など諸施設も大変充実している(特に図書館は規模・格調ともに圧巻である)。ミドルテネシー州立大学は、マーフリーズボロの地域の人々との積極的な交流にも力を入れており、レクリエーション・センターでキャンプやロッククライミング、ハイキングなど多くのレジャーを提供している。レストラン、ショッピング、娯楽・文化の施設も近隣にある。

条件

両学部: 授業料免除での交換留学(学部専門留学)のため、TOEFL(ITP)500点以上。

留学時期

2年次または3年次の第2学期から4ヶ月または10ヶ月。



限りない可能性

経済学部経営学科 2015年留学 草薙 進二

ふと、物思いにふけて遠い地にいる友達のことを思うと感傷的な気持ちになってしまうのは、思い入れのある土地と人々にさようならを言ったばかりなのと、アメリカの生活に慣れた自分が日本に帰国している戸惑うところがあるから、というのが大きな理由だと思います。

ミドルテネシー州立大学の場合、交換留学のプログラムのため最初の学期からビジネスの授業が取れたことは専門分野がより多く学べただけでなく、英語のレベルをすぐに上げる近道でもありました。それがいいことなのかは人それぞれです。かくいう私は、初めから英語のスピードがケタ違いに早くすごく苦労しました。もちろんのことながら

ビジネスを教えている先生方は英語を教えているわけではないので、スピードや訛りを気にして話してはくれません。わからないことがあって隣の人に聞いても早い英語で帰ってくるばかりだったので最初の頃は気が抜けませんでした。自己主張してこそ貢献できるようなディスカッションやグループワークは展開が早くてなかなか追いつけませんでした。しかしそういうことがあったからこそ序盤の方でアメリカ人の英語のスピードに慣れることができて、いろいろと挑戦することができました。アメリカ人の友達が多くできたのもそこにあると思います。苦労が絶えなかったグループワークも今ではいい思い出です。

また人種間の現状をこれまで以上に深く考えることができたのはこの留学の大きな収穫でもあります。例えば黒人の方々についてです。日本にもある程度の黒人が住んでいると思いますが、日常的にほとんど目にすることはありません。しかし当たり前のようにアメリカには白人もア

ジア人もラテン系の方も黒人の方も圧倒的に日本より人種の多様性に富んでいます。そういう環境に身を置くと、日本では目にすることがないものが見えてくるということがたくさんあります。テネシーは南部に位置していることもあり黒人の人たちも多く住んでいます。人口を考慮しても黒人やムスリムの割合がテネシー州は多かったと思います。そのため黒人の文化であったり、振る舞いや英語のなまりであったり日本においては考えることはなかったであろうことを実際に目にすることができました。ちょうどシカゴに遊びに行った時には、白人の警官が無実の黒人の青年を銃で何度も打ったことに対する大規模なデモに遭遇することもありました。そのような事件がアメリカで何度もあったことから、ソーシャルネットワークを通じて「本当のアメリカの悪は警察」、あるいは「黒人差別はなくならない」などの訴えを目にすることが何度もありました。黒人の友達からは、実際に受けた心ない行い

や言葉の数々を聞かせてくれました。また、イスラム国によるテロなどの常軌を逸した過激な行動により、ムスリムへのヘイトクライムも一時期間問題になったのもよく覚えています。学校のムスリムの生徒が何者かに暴行を受けたニュースを見た時には驚きました。なぜなら事件が起きたのは寮の近くだったからです。アメリカにいた時ほど、日本人としての帰属意識を考えたことはありません。

この9か月間、あらゆることに挑戦しました。留学はせずとも英会話やインターネットで練習したり知識を広げたりすることもできる時代です。だからこそ留学の価値をしっかりと見出すことが大切になってくると思います。目にした全てのものが輝かしいものであったわけではありません。現実を見てそれを受け止め、どう対処していくかも成長に繋がっていくと思っています。やりたいことをしっかりと見据えて、自分の限りない可能性を信じて。